

NHK 土曜ドラマ「再生の町」

久しぶりに5回の連続ドラマを興味深く見た。大阪府の「なみはや市」という架空の自治体の財政破綻をテーマにした社会派ドラマである。夕張ショックを契機にして地方財政危機や財政再建が話題になり、地方財政をテーマとする番組誕生となった。

NHK の案内サイトに詳しく紹介されているが、主人公・高岡駿馬は横浜のデパートが閉店となり、亡き父が働いていた市役所に再就職する。この町は財政破綻が表面化し、財政再建のプロジェクトチームが発足し、一律15%の予算



削減案を作成する。チームリーダーはかつて高岡の父の部下だった間宮であり、高岡も懸命に作業を進める。予算削減は市民生活に欠かせない病院や公営住宅、福祉施設、公民館などに及ぶ。プロジェクトチームの提案に対する市民の反発、自治体や公務員の役割など示唆に富むことが多かった。

焦点は前市長の時代に計画されたニュータウン開発である。高岡はニュータウン開発を凍結して、市民生活を守ることを提案する。間宮が突然倒れると、高岡が新しくリーダーとなり、町の再生に向けた提案作成のために奔走する。そして、市民公開の場で再建案が説明される。ニュータウン開発を推進してきた議会のボスに対して、若者が「町の希望とは何か」と問いかける。市長は親父である前市長が推進したニュータウン開発の不正を暴露し謝罪する。祭りの復活など、町再生に向けた動きを伝えドラマは終わる。

ざっと、こんなドラマだった。高岡を演じた筒井道隆、妻役の牧瀬理穂、間宮役の岸部一徳、チーム仲間役の南果歩、市長役の吉田栄作、ボス議員役の近藤正臣、老人役の長門裕之など、芸達者の演技も迫力があつた。それにしても大阪南部のとある自治体、なにかと話題となる首長の行動・発言を連想させるリアルな内容であり、じつに見応えがあつた。学生に見てもらいたい番組であるが、果たしてどれだけ見ているであろうか。

(2009年9月28日 記)